

# 通信

2018, 12, 7, Vol. 10

## 公益社団法人 福島原発行動隊

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル 1階A室 〒101-0063 Tel: 03-3255-5910 Fax: 03-3525-4811 Mail: svcf-admin@svcf.jp Web: http://svcf.jp

# 福島復興支援事業に向けた"営業活動"

理事長•安藤博

11月18~20日に事務局メンバー等4人で福島に出向き、「福島復興支援事業」のための"営業活動"をしてきました。営利とは縁のないわたくしたちボランティア団体が、「お仕事を下さい」「買って下さい」と頼んであるく建設業者や商社マンのように営業するとは妙な感じもします。

廃炉や放射能汚染水処理のような原発事故 収束事業に直接参画することはさしあたり望 み難く、団体発足の初志をかなえられないまま 7年余を費やしているなかで、被災者/地に少 しでも役立つ活動の場を得ようとすることが ひとつ。そして、福島現地では復興のためにさ まざまな手助けが必要になっていて、東京の事 務所に座っていてはその要請を実際につかむ ことは出来ない、福島現地まで赴く以外にはな いからです。

"営業"の相手先と話し合いの結果は以下の通りです。

#### 1、大熊町

渡部千恵子氏: NPO「大熊町ふるさと支援隊」 代表(2019 年 2 月 14 日院内集会講師)

「大熊町帰還困難区域内の被災/避難者留守宅の保全に手助けが必要」

### 2、川内村

遠藤公明氏:かわうちワイン株式会社取締役 (ぶどう園長)

「原発事故の後遺症である風評被害で、牧畜等は成り立たなくなったため、農産加工物の製造業で活路を開こうとしている。3年前からソウビニオン、メルロー、シャドネなど7種の苗を植え、うち土壌に合った3種にしぼろうとしていて、2019年秋には収穫に入れる見込み。通年膨大な作業が必要で、支援者を切望している」ぶどう樹の越冬に備えた保守作業が行われていて、11月20日には安藤、杉山、高橋済の三人が"営業"と併せて約6時間、遠藤園長の指導を受け作業に加わりました。

今後、12/16(日)~19(水)の3泊4日、4~5人の予定で作業支援に向かう計画です。



SVCF 通信: 第 105 号 2018 年 12 月 7 日

## 3、富岡町

## 黒澤真也 / 復興推進課長

「SVCF の復興支援活動を知らせるポスターを町役場等に掲示して支援要請を募る」

## 猪狩隆/同町社会福祉協議会事務局長

「社協主催/協力のイベントにつき必要の都度 社協から SVCF への支援要請を受ける」

(詳細は福島原発行動隊ホームページ

http://svcf.jp/archives/6945 をご覧ください)

大熊町の渡部さんとの話し合いのなかで、同じ NPO メンバーで、いわき市で避難生活を送る KJ さんの大熊町の留守宅に、11 月半ばイノシシが侵入し、家屋が著しく荒らされたことが分かりました。



一日も早い帰還を希望し、帰還に備えて家屋の保全に努めているけれども、男手なしではでとてもおぼつかない。 約 900 坪の庭は雑草のジャングル状態で、イノシシの"隠れ家"になっているとのことです。

そこで、11月30日安藤、杉山、山田次郎の SVCF 通信: 第105号 2018年12月7日 3 人が刈り払い機を車に積んで KJ さん宅に出かけました。

福島第一原発直近、大熊町の帰還困難区域は、 同じ立ち入り禁止区域でも富岡町など他の町 村とは違った趣があります。樹木雑草が重苦し く生い茂るさまは人を寄せ付けまいとするか



のようです。亡くなった父上が丹精を込めていたという庭の畑などは文字通りジャングルになっています。

とりあえず、畑だった 100 坪ほどに手を入れることにし、午後 3 時までの約 5 時間、刈り払い機を振るい続けました。

帰り支度をしていると、つい先日 90 歳になられたお母さんが言われました、「7 年ぶりにお隣のおうちの屋根が見えるようになりました。ありがたいことです」と。

営業結果に基づく新たな活動のことを聞いて、陰口をきくひとがいるかもしれません。

「ええっ!福島原発じゃなくて『福島イノシシ行動隊』かよ」、「自分が飲みたいからワイン業に入れ込むことになったんじゃないの」等々。言わせておきましょう。

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

. . . . .

## 楢葉遠隔技術開発センター見学報告

伊藤邦夫

11月18~20日の福島営業活動と併せて19日に行われた「国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 福島研究開発部門 福島研究開発拠点 楢葉遠隔技術開発センター」訪問に参加して見学しました。所在地は楢葉町大字山田岡字仲丸で、最寄りのJRの駅は広野です。



研究者としてここに勤務する方は 10 名ほどで、 単身赴任だそうです。

このセンターの主要な業務はロボットを開発している事業者に対してロボットを実験する場所を提供することで、ロボット自体を開発しているわけではありませんでした。

ロボットの設計者がロボットの動ける空間を実感できるように、配管が複雑に入り組んだ原子炉の内部にいるかのように錯覚できるいわゆるバーチャルリアリティシステムをこの開発センターで作成していて、これがセンター見学の目玉になっています。

提供している実験のための場所としては、単なる 空間(建屋)、水槽、模型階段、モーションキャプチ ャ区域がありました。

単なる空間ではそこにロボット開発事業者が実物大の原子炉の一部のレプリカを作成してそのレプリカにたいしてロボットで作業するようなことができます。水槽では水が溜まっているサプレッションチャンバーと呼ばれるところの内部で作業するロボットを実験できます。模型階段では階段の構造を色々変えてロボットが上り下りできるか実験できます。モーションキャプチャ区域では野球の投手がボールを投げるときの体の各部位の動きを追うように、ロボットのいろいろな動きを3次元的な数値情報として追跡できます。

このように、このセンターは福島の事故原発の廃炉に必要なロボット開発の支援機構であって、行動隊の隊員が今ここで活躍できるとは考えられません。行動隊としての王道は、ロボット自体の開発事業者に直接働きかけて、被ばくを伴うことになるロボットの操作・保守に老人が関われるようにロボットを設計するように仕向けることではないでしょうか。

ロボットの設計における人間工学的観点(人間の機械としての性能という観点)からの実験、例えば設計したロボットが老人にも操作できるかどうかという実験にこのセンターが使われるというようなことになれば、行動隊の隊員にもこのセンターで活躍する機会が生じると期待されます。現在でも、学生のロボット操作実習場としてこのセンターは使われているそうです。

## 第77回院内集会のご案内

# 「農業の復興に寄与したい!」

3

ことし最後の院内集会は、シリーズ「原発被災地県 福島の復興」の三回目、福島県南相馬市のみ

SVCF 通信: 第105号 2018年12月7日

うらファミリー農園代表で、東日本大震災の翌年に NPO 法人<野馬土>を立ち上げて地域の農業・

公益社団法人福島原発行動隊

畜産業の復興に全力で取り組んでおられる三浦広 志さんの講演です。

日時:12月13日(木曜)11:00~13:00

会場:参議院議員会館(地下鉄有楽町線永田町

駅議員会館改札徒歩3分)地下1階103号室

講師: 三浦広志·NP0「野馬土」(平成 24 年 10 月 1

日法人認証)代表

## 【講師紹介】



福島第一原発の炉 心から11kmの地点に ある5haの農地で専 業農家を営み、無農 薬・減農薬の米やち 菜などを作っていた。 学校を卒業した息子 さんと農業を始めた矢 先、東日本大震災被

災。壊滅的な被害を受けながらも地域の農業・畜産業の復興に全力で取り組んでいる。NPO 法人「野馬土」を設立、産直品の販売、イベント開催など多彩な活動を展開している。

福島産食材の安全・安心のため、福島産の米の全袋検査を実践したり、県外の米穀販売業者との

交流会を開いたりして福島産農産物の販路拡大を 図っている。

「日々の生活には笑いが必要」との考えから、被災地の暗い雰囲気を改善し福島県民が元気になれるよう、陶芸教室、珈琲セミナーを開催、芋掘り体験の場を設けたりしている。

## 【活動目的】

福島県民に対して、放射能汚染による食品の安全性に対する不安や県民の健康に対する不安を最小限にとどめるための事業を行い、相馬地方をはじめとする福島県の地域及び農業復興に寄与することを目的とする。

#### 【活動分野】

- ・コミュニティーカフェ『野馬土』運営事業
- ・地元農産物等の放射能検査と結果公表
- ・交流イベントの開催事業
- ・直売所等での農産物販売事業

〒976-0006 福島県相馬市石上字南白髭 320 番地

TEL:0244-26-8437 FAX:0244-26-8203

E-mail: info\_nomado@fork.ocn.ne.jp

ホームページ: https://nomado.info

# <11 月院内集会報告>

11月の院内集会(15日木曜、参議院議員会館 1階102号室)は、元日本原子力発電株式会社理 事で事故後、福島県須賀川市で避難生活を送っ ておられる北村俊郎さんに、「福島の復興を考える」 と題してご講演いただきました。

10月から始めたシリーズ講演「原発事故被災地福島の復興」の2回目です。

北村さんは、集会に先立ち28ページに及ぶパワーポイントスライド(「福島の復興を考える」)のプリントをお送り下さり、その冒頭にこの講演でどのようなことを述べようとするかにつき以下のように記されています。

「福島第一原発の事故から7年半が経過した。避 難指示区域は大半が解除されたが、帰還困難区 域が未解除。廃炉は計画より遅れ風評被害も完全に払拭されていない。県内の除染で発生した汚染土壌などは原発近傍の中間貯蔵施設に搬入が続いている。汚染水の処理方法は決まっていない。福島は復興半ばだが、国の定めた復興期間は残り2年余りとなっている。解除しても住民が戻らず、地域の復興もちくはぐで、このままでは国の支援がなくてもよい状況になるには何十年もかかりそうだ。どのようにこの危機を乗り越えるか、将来展望も含め考えを述べたい。」

講演は、上記のスライドに沿って、被災地の現況 (被災避難者の帰還が進まない、その原因、廃炉 事業の遅れ、賠償を巡って生じている県民の分 断)、復興事業財政、風評被害等について克明な 資料を示しながら進められました。その詳細については、前記のスライドプリント全文が SVCF ホームページに10月29日「第76回(11月15日)院内集会 講師提供資料」として掲載されていますので、このスライドプリントをご参照ください。

## http://svcf.jp/archives/6913

講演のなかでは廃炉/復興事業に当たっている 企業や行政、マスコミに対する厳しい言葉もありま した。

- ・日本を代表する大企業なのに、お粗末なミスがやたらに多い。
- ・廃炉事業が計画から遅れているにもかかわらず、 政府/東京電力が「最終ゴールだけは譲らない」で いることによって信頼性に疑問をもたれるようにな っている。
- ・国や自治体がやっていることは、施策の実際の 効果を考えるのではなく「やっているという実績」を 示すことに偏っている傾向がみられる。
- ・メディアの伝え方は、「とかく明るいニュースと暗 いニュースだけにパターン化、マンネリ化」している。 最後に「福島がやるべきこと」として、以下を力説 されました。
- 理想を追わず現実的な課題解決を進める 当初計画にこだわらず、フレキシブルに
- ・ 廃炉、放射性廃棄物処分事業の地場産業化 (廃炉等に投入される資金を外から福島に入って きている大手ゼネコンなどに吸い上げられてしま

わないように)

環境・エネルギー問題解決のパイオニア県を目指す(2040年頃には再生可能エネルギーで自給率100%を目標)



講演後の質疑の中で、以下を特に記録しておきます。

問い:福島原発行動隊は、東日本大震災/原発事故直後に「身を挺して事故収束に当たる」として立ち上がったが、今後そうした行動の出番がくることが予想できるだろうか。

北村:デブリの処理などの廃炉事業などは、関係 企業がやっていくことになるが、それを十分に監視 し問題があれば福島のため、国のために声を上げ る役割りを果たして欲しい。

# 山形のお米と福島とSVCFと私

## 飯島定幸

私もご多分に漏れず、この行動隊に登録をして からはフォークリフトやバックホー(ユンボ)の使用 免許取りに行きました。

が、たった数日間の講習レベルでは実践には役には立たない事は百も承知でしたので、私が提携している山形新庄の有機農家に連絡を取って、広大な田んぼ一面が未だ 2 メートルほどの雪に埋もれている地所を使わせて頂き(もちろんバックホーも借りて)、練習をさせてもらう依頼をしました。二

つ返事で了承して頂いたのですが、そこの家には 大型のバックホーは無かったので、すぐにその方 の親戚に連絡をして、その機械と田んぼを提供し てもらえる約束を取り付けてくれました。

それまでの提携内容には含まれない福島応援のためとはいえ、この突発的な要請に、即、応えて頂けたのは、この新庄有機農家グループは、3・11後に直ぐに石巻・仙台周辺への炊き出し支援活動の行動を起こしていたからなのです。

お米、野菜には事欠かなかったのですが、(当時は)車と燃料は警察に依頼して緊急車両の扱いを受けて、隣県の新潟まで行って優先確保し、グループ会員には救済募金を働きかけました。

そして新庄市行政の協力も得て震災後の記憶・ 教訓を風化させまいと、震災被害に遭った人達と 一緒につい一年前までイベント交流(田植え〜収 穫作業、関東関西への震災記憶を語り継ぐ行脚等) を続けていました。

「顔と顔の見える生産者と消費者の提携」が実を結んだ一コマではありました。



今、我が福島原発行動隊(SVCF)は、これまで

の活動実績を基に、これからの活動をどうしてゆくかを新たに模索中です。今後の原発現場での非常事態に(福島の地に限らず)いつでも駆けつけ、それなりの活動作業をするというのは、3・11当初の高邁な理念・理想以上にとてつもない困難を伴っていることを、つくづく思い知らされていて、なおその改善策・乗り越える方針を持ち得ることが出来ていない悶々たる今日。それは、客観的には我が隊の怠慢として(全国の地で活躍しているグループは、ごまんといるわけですから)受け止め、平々凡々の言辞ですが、"諦めず行動しながら"考え抜きましょう。

その意味では、福島原発行動隊の"再興"には、 原発現場での非常事態に何が出来るかを考え抜 くのは第一義的・第一優先だとしても、福島の地で の我が隊の活動内容に、福島復興(復旧では無く) 有機農法とか(自然農法でも良いのですが)あるい は農林業・福祉連携とか、今までのSVCF定款で は文字化されていなかった理念を取り入れないと、 一歩も先には進めないと思います。

飯島定幸:福島原発行動隊の一隊員 (日常生活は 山形新庄大豆畑トラスト事務局)

# <行動隊 12 月スケジュール>

下記の活動はだれでも参加できます。

参加をお待ちしています!

# · 院内集会

13 日(木)、三浦広志・NP0<野馬士>代表

連絡会議(会場は淡路町事務所、右の地

#### 図参照)

- 7 (金)、14 (金)、15 (土)、21 (金)、27 (木)・
- 事務所休業 12 月 28 日(金)∼2019 年 1 月6 日(日)

